

# 日下川の治水施設とその歴史



巨大な水のトンネルは、  
未来へのトビウ。



日高村キャラクター  
「もへいくん」



インフラツーリズムの様子  
(新日下川放水路制水門)



新日下川放水路 (呑回)

昭和 50 年 8 月台風 5 号 (日高村本郷付近)

国土交通省 四国地方整備局  
高知河川国道事務所

## 仁淀川流域における日下川の位置



仁淀川源流  
石鎚山

仁淀川と屋形船  
(日高村提供)

仁淀ブルー  
(いの町にこ淵)

## 日下川の治水施設一覧

| 名 称          | 規 模                           | 完成年     | 管理者   |
|--------------|-------------------------------|---------|-------|
| 派川日下川        | 直径 3.2m 総延長 3.7km             | 昭和 36 年 | 高知県   |
| 日下川放水路       | 直径 7.0m 総延長 5.0km             | 昭和 57 年 | 国土交通省 |
| 新日下川放水路      | 直径 7.0m 総延長 5.4km             | 令和 6 年  | 国土交通省 |
| 神母樋門         | 幅 10.3m× 高さ 8.0m×3 門          | 昭和 62 年 | 国土交通省 |
| 岡花 (日下川) 調整池 | 調整池湛水容量 52.0 万 m <sup>3</sup> | 平成 10 年 | 高知県   |
| 沖名 (戸梶川) 調整池 | 調整池湛水容量 30.6 万 m <sup>3</sup> | 平成 23 年 | 高知県   |



お問い合わせ

国土交通省 四国地方整備局 高知河川国道事務所  
TEL : 088-833-0111  
https://www.skr.mlit.go.jp/kochi/

R7.3

## 日下川流域の概要

日下川は、一級河川仁淀川の一次支川で、その源を佐川町下山の低山地に発しています。

長竹川、戸梶川と合流しながら東に流れ、仁淀川の河口より約 14.2km 付近で合流する、幹川流路延長 11.7km、流域面積 38.0km<sup>2</sup> の河川です。

日下川流域の中央を東西に国道 33 号、JR 土讃線が縦走しており、これに沿って日高村の市街地が細長く形成され、昭和 50 年以降において宅地化が進んでいます。



流域沿川は、豊かな自然環境を残す水田を主とする農地が広がっています。

特にトマト栽培が盛んで、「シュガートマト」としてブランド化されています。

## 治水の歴史 (水との闘い)

日下川流域では、明暦元年 (1655) に下流側に鎌田堰が築造されてから、ただでさえ浸水被害を受けてきた上に、鎌田堰の影響による水位上昇が加わり、浸水被害がさらに増大しました。このため、日下川と仁淀川の合流点では、仁淀川からの逆流を防ぐため、長い年月、大水と人間との攻防が幾度も繰り返されました。



享保年間 (1716 ~ 1736) 背割堤ともいう一時的羽根を仁淀川に設けました。宝暦 8 年 (1758) には永久的築造とし、天明 4 年 (1784) には羽根 70 間 (約 130m) を延長したところ、大洪水に見事な効果を発揮しました。しかし幾度となく流失し、そして修築、まるで洪水とのイタチごっこが続けられました。(1 江尻羽根)

嘉永元年 (1848) には現在の神母樋門の下流に 9 尺 4 面 (2.7m×2.7m) の水門が築造されました。しかし大水のたびに流失 (約 40 年間で 5 回) しました。このため、位置が適当でないことを悟り、江尻の井流は廃止されました。(2 江尻の井流)

明治 20 年 (1887) には江尻の井流の上流側に新堤防を築造し、2 条の自動扉を付設しました。しかし、大水のたびに破損と改修を繰り返し、大正 3 年 (1914) に巨額を投じて樋門の永久工事を完成させました。現在の神母樋門は昭和 62 年に完成しました。(3 神母樋門)

## 近年の日下川流域の災害

施設の数字①~⑥: 裏面の治水施設位置図の番号

日下川は、洪水時に仁淀川本川の逆流の影響を受けないよう、合流部の①神母樋門を全閉するため、日下川の水が排水できず、台風などの集中豪雨により、過去に大きな浸水被害を受けています。

日下川の低平地部は、全体として地盤が低いうえに、昭和 21 年 12 月の昭和南海地震により 1m 以上の地盤沈下が生じました。→対策として②派川日下川 (放水路) を整備しました。

昭和 50 年 8 月の台風 5 号による洪水では、日下川流域の流出量の大半を内水として抱えこむ形となったため、日高村の平野部のほぼ全域が水没し、死者 25 名を伴う床上浸水 659 戸、床下浸水 121 戸の甚大な被害を受けました。→対策として③日下川放水路、④岡花調整池、⑤沖名調整池を整備しました。

国土交通省や高知県により放水路や調整池の整備などの治水対策が行われ、浸水被害軽減に一定の効果を上げてきました。



平成 26 年 8 月台風 12 号洪水の状況 (JR 冠水)

しかし、平成 26 年 8 月 3 日の台風 12 号において、床上浸水 109 戸、床下浸水 50 戸、浸水面積 274ha さらに平成 26 年 8 月 10 日の台風 11 号において、床上浸水 18 戸、床下浸水 47 戸、浸水面積 214ha の被害が発生し、1 週間の内に 2 回も甚大な被害が発生しました。→対策として⑥新日下川放水路を整備しました。

## 近年の日下川流域の災害 (洪水の状況)



昭和 50 年 8 月台風 5 号洪水の状況 (日高村下分)



昭和 50 年 8 月台風 5 号洪水の状況 (日高村本郷)



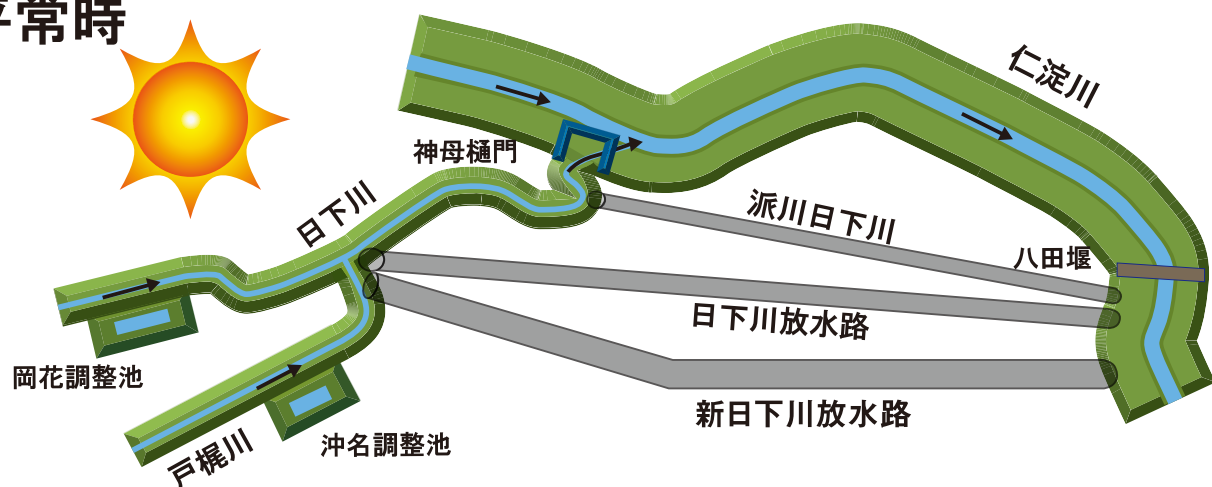
平成 26 年 8 月台風 12 号洪水の状況 (日高村沖名)



## 日下川の治水施設位置図



**平常時**



日下川の水は、  
平常時には**神母  
樋門**から仁淀川  
に流れます



## 治水施設の仕組み



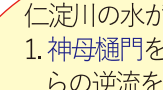
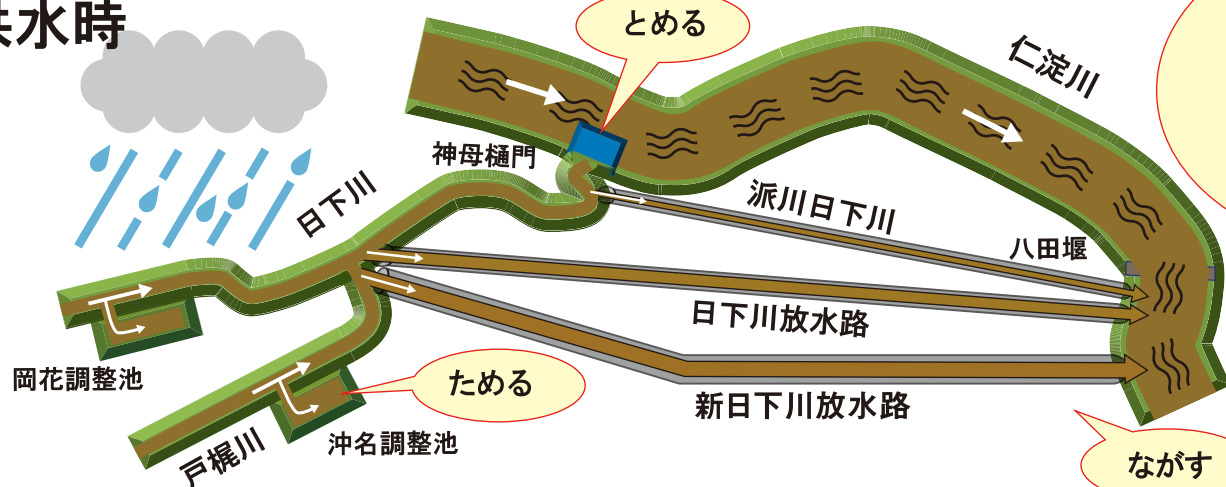
八田堰の下流に洪水を流します。

#### ④岡花調整池,⑤沖名調整池



2カ所で 82.6 万  $\text{m}^3$  を貯めることができます。これは、東京ドーム (124 万  $\text{m}^3$ ) の約  $2/3$  の量です。

## 洪水時



仁淀川の水が逆流しだすと

1. 神母樋門を閉めて仁淀川からの逆流をとめる
2. 調整池に水をためる
3. 放水路から水をながす

ことで日下川の水位を下げます



いげひもん  
① 神母樋門



仁淀川本川からの逆流防止のための樋門です。

は せんくさか がわ  
②派川日下川



最大毎秒40m<sup>3</sup>を仁淀川に排水します。

### ③日下川放水路



放水路トンネル  
の点検中



最大毎秒130m<sup>3</sup>を仁淀川に排水します。これは、25m プールを約4秒で貯めることができる量です。

### ⑥ 新日下川放水路



最大毎秒 130m<sup>3</sup> を仁淀川に排水します。

仁淀川流域では、いの町を流れる宇治川にも3本の放水路トンネルがあり、新日下川放水路トンネルは6本目となります。仁淀川流域の放水路トンネルの総延長は19.1kmとなり、自然に流れる放水路だけの延長の合計は日本一となります。